

2017年 6月号
通巻 182号

発行所
岩手県盛岡市中央通3丁目8-16
電話019-651-0810
FAX019-653-1057

岩手県同胞生活相談総合センター



李正成君・張由莉嬢結婚式(5/6)

毎月25日発行 0円 同胞生活情報誌 ハナ songsu75@yahoo.co.jp

インタビュー <朝米対決は最終段階に入った> (統一学研究所 韓浩錫)

統一学研究所 韓浩錫所長が祖国統一情勢講演会(5/19 東京、5/20 大阪)に出演するため日本を訪れた。彼は朝鮮半島情勢を深層分析する論稿をいろんな媒体に発表している。激化する朝米関係を中心に話を聞いた。

試験発射、<半歩だけ残った>

→トランプ政権発足後の朝米対決の様相をどう見ているか。

トランプ政権が今年1月に発足したが少し時間を遡る必要がある。金正恩国務委員長が最高領導者として活動されて以降、朝米核対決が本格化し最終段階に入ったというのが私の分析だ。朝米核対決が本格化し最終段階と表現する理由は朝鮮が大陸間弾道ミサイル(ICBM)試験発射を行う段階に至ったからだ。米国本土打撃の力を実証するICBM試験発射の成功は事実上朝鮮の核武装の完成でありこれは、朝米核対決に終止符が打たれることを意味する。ロシアや中国のような米国の潜在的敵国もICBMを保有し核武装を完成したがあの国らは米国と戦争する位置にない。大国間の葛藤があるだけだ。

朝鮮は違う。停戦体制下で米国と依然交戦関係にある。そして米国は自己の核武力を動員し朝鮮を威嚇している。このような状態で朝鮮が核武装を完成するということは米国の国家安保が破綻するということだ。しかし<戦略的忍耐>で時間を無駄に使ったオバマ政権は米国が直面したことのない最も難しく深刻な問題を生じさせそれをトランプ政権に放り投げて去って行った。責任転嫁されたトランプ政権も今、朝鮮の力が強大化するのを傍観するしかない状態だ。今日の朝米核対決は朝鮮が連続的に攻勢を取り米国が継続して守勢に追われている構図だ。

→朝鮮はまだICBM試験発射をしていない。弾道ロケット技術の発展段階をどのように分析しているのか。

朝鮮の実力は5月14日の<火星-12>型試験発射が如実に見せてくれた。大型重量核弾頭も装着できる<火星-12>は朝鮮の公式媒体で<中長距離弾道ロケット>と発表されたが冷戦時期、米ソ間で結ばれた戦略兵器制限条約(SALT)の基準に照らせばICBM(射程5500km以上)の範疇に属する。通常ICBMを正常角度で発射すると1,200kmまで上昇飛行するのだが<火星-12>はほとんど垂直に近い超高角で発射され最大頂点高度が2111.5kmに達した。<火星-12>は一段ロケットだ。これは朝鮮が推力を飛躍的に向上させた大出力ロケットエンジンを開発完成させたことを物語る。宇宙空間に打ち上がり大気圏に再突入する<火星-12>の操縦戦闘部(弾頭部)の中にはテレメトリ、つまり自動化された測定資料遠隔送信装置が設置されそれが飛行高度、速度、方向等の資料を地上基地に送信していた。米国も送信された電波をキャッチした。だから海に落弾するまで30分11秒かかったことが分かったのだ。私が計算したところ<火星-12>が正常角度で発射され30分飛行したとしたらその距離は9,000km程になる。今回と同じように平安北道亀城から発射したとすると米国本土西部まで到達する距離だ。なのに米国は<火星-12>の飛行時間が30分11秒と発表しながらその最大射程については口を閉ざしている。今回の発射を通して信頼性が確認された大出力ロケットエンジンで2段ロケットを作れば射程はもっと伸びる。金正恩国務委員長の新年の辞を通してICBM試験発射準備が最終段階に至った事が公表された。予告されたICBM試験発射までは、あと一歩ではなく半歩だけが残った。<火星-12>試験発射成功が客観的な反証資料だ。

政治協商だけが唯一の選択

→トランプ政権は<最大の圧迫と関与>を新しい対朝鮮政策として打ち出した。(裏面下部へつづく)

いもじょも掲示板

■追悼碑清掃作業

日時：6月10日(土) 午前8時～10時

場所：滝沢 <アピオ>追悼碑

■盛岡支部<時局講演会>

日時：6月27日(火) 15時～

会場：本部会館

■同胞ゴルフコンペ

日時：7月4日(火) 9時集合、9:38 スタート

会場：北上 CC

会費：3,000 円(プレー代等各自負担)

主催：県南支部

■女性同盟結成70周年記念

「岩手同胞女性たちの祝賀会」

日時：7月5日(水) 12時～

1部:記念講演 2部:祝賀会

会場：ホテル東日本 4F 椿の間

会費：5,000 円

■ウリ信地域総代・組合員の集い

日時：7月12日(水) 午後4時～

会場：ホテル東日本 2F 末広の間

■ウリ民族フォーラム 2017 愛知

日時：7月16日(日) 11時～

会場：未公表

■みちのく K・K フェスタ

日時：7月29日(土)～30日(日)

会場：山形県 鳥海高原家族旅行村

ドクターカンの 健康講座

第171回 『認知症への理解』

少し前になりますが認知症の講演を聞きに行ってきました。認知症の方は周りの人が自分をどう見ているか不安で過敏です。

特に強い言葉や態度や反対の意見を云われるとその人を信用しなくなり、関係を改善させるのは困難となってきます。しかしそれは認知症の人に限らず普通一般の人でも程度の差はあれ同じように反応しますよね。

もの盗られ妄想は認知症ではよくある作話状態で、「誰もとってないよ」とすぐ云いたくなります。「誰がとったと思うの」「本当にあの人がとったと思うの」「どうしてあの人がとったと疑うようになったの」とゆっくり穏やかに対話し、人を疑ってしまった自分を客観的に見るように誘導し自尊心を高める。

つまり想いを汲み、聴く(傾聴)ことで共感に近づき、患者さんの自分自身の価値を高めるという支持的精神療法は非常に重要であると。又認知症の人を、理解する能力が低い方に読み誤ることに注意されました。

「認知症を恐れたり、認知症にならないように過度に異常に取り組んでいる人は、認知症の人々を理解できず介護もできない」というしめくりの言葉はずしんと心に響きました。

外へ出て歩きましょう。

(協力:幸クリニック院長 姜幸一先生)

(表面から継続)

<最大の圧迫と関与>は唯のうたい文句だ。西側のメディアが大々的に報じている朝鮮への脅迫と恐喝は交戦相手の総攻勢に恐れをなしたトランプ政権の虚勢にすぎない。いま恐ろしい圧迫を受けているのは朝鮮ではなく米国だ。トランプ政権は《すべての選択肢がテーブルの上にある。》としながら朝鮮に対する軍事攻撃の可能性を示唆しているが実際には選択の余地はない。核強国朝鮮と戦争するのは自殺行為だ。米国が破局を免れる唯一の道は戦争回避のため平和協定締結を主題に朝鮮と政治協商を始めることだ。

最近トランプ大統領が朝米首脳会談に関する発言をし、主要閣僚達も核問題の平和的解決について云々している。米国が直面している事態の深刻さを十分に自覚するならば言葉だけでなく行動を起こさなければならない。

一朝米核対決が最終段階に入った中、文在寅政府が出帆した。

文在寅政府が難しい時期に出帆したが政策推進の優先順位は明確だ。悪化した北南関係から解かなければいけない。新大統領はまず選挙期間中に約束したとおり開城工業地区と金剛山観光等対北事業を再開し危機に瀕した南朝鮮経済の活路を北南経済協力で切り開く構想と意志を行動で見せなければならない。そして北南首脳会談を早い時期に実現できる条件と環境を作り朝鮮半島で戦争危険を取り除き民族和解を進める最大の努力を傾けなければならない。朝米核対決は朝鮮の勝利と米国の敗北で終わることだろう。そうなれば祖国統一の転換的局面が開かれる。民族の利益に沿って情勢発展を主導するため北と南が力と知恵を合わせ共に難局を打開して行かなければならない。